

## 日本リンパ網内系学会プログラム委員会議事録

平成 19 年 5 月 26 日（土）13:30～14:30

兵庫淡路夢舞台国際会議場 3 階 310 会議室

出席者（50 音順）：岩渕和也（北海道大学）、岡本昌隆（藤田保健衛生大学）、小島 勝（獨協医科大学）、田丸淳一（埼玉医科大学）、飛内賢正（国立がんセンター中央病院）、丸山 大（同）以上 6 名

まず岩渕（次期会長 小野江和則代理）より

1) 来年度の第 48 回日本リンパ網内系学会は北海道大学遺伝子病制御研究所の小野江和則教授を会長として平成 20 年 6 月 12（木）～14 日（土）にかけて北海道大学学術交流会館において開催することを報告した。

2) 次に、第 48 回の学術集会についても、これまでと同様リンパ腫を核として血液病理医と血液腫瘍内科医が近い距離で忌憚なく意見交換やそれぞれの領域の最先端を吸収出来る集会とすることが確認され、出席のプログラム委員より以下に掲げるような意見を頂いた。

- ・2007 年には WHO のリンパ腫分類が改訂出版される（ドラフトは 2007 年末までには出る）ので、『新しい WHO 分類と今後の展開』（仮題）のようなシンポジウムが一つの目玉となるのではないかと。
- ・会長からの提案である感染性微生物と腫瘍発生のメカニズム（H.pylori・EBV・HTLVI など）も良い。
- ・第 48 回では樹状細胞研究会とは別開催となるが（国際樹状細胞シンポジウムが神戸であるため）、リンパ網内系学会会員で樹状細胞研究者のためのセッションを一つ設けてはどうか。
- ・第 11 回血液病理研究会については同時開催なので、第 47 回と同様スライドカンファレンスを望む。
- ・その他、PET によるリンパ腫の治療効果を評価するための標準化ガイドライン（2007 年 JCO 掲載）、Zevalin, Fludarabine など新しい治療薬、“Meets the experts”, 多発性骨髄腫の治療、など企画の種子となりそうな、いくつかの提案がなされた。
- ・若い会員を学術集会のモチベーションを上げるために、ここ数回はすべてポスター発表となっている一般演題（特に若手の）から、口演に選ぶなども有用かもしれない。
- ・また、ポスター発表について、すべて短時間でサマリーを口演してもらってから、あるいは一部をワークショップ形式で口演してから、その後ポスター前でディスカッションする形式はどうか。
- ・また第 47 回の企画 1「○○の知りたい○○」のような基礎的であるが、意外と知らない、今更訊けないような領域をカバーすること、また第 47 回の企画 2 のような、フロアともある程度インタラクティブなものは第 48 回でも是非設けたら良いのではないかと。
- ・参加予定をあらかじめ立て易くすることは、参加者を増やすのに重要な方法である。このために、早い時期でのプログラムの決定とホームページへのアップなどをするようにしたら良い。

以上、多くの貴重な意見が出された。今後さらにプログラム委員会・現地学会事務局で検討の上、第 48 回日本リンパ網内系学会総会・学術集会に生かして行きたい。